

神奈川県立県民ホール及び音楽堂
指定管理業務実績評価委員会評価結果

令和4年8月

1 委員会委員

委員名	役職
垣内 恵美子	政策研究大学院大学教授
草加 叔也	(有)空間創造研究所代表取締役
佐々木 春美	公募委員
高野 伊久男	公認会計士
谷垣内 和子	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会・実演芸術振興部企画室長
中島 秀男	東京都水の科学館 統括責任者 (株式会社乃村工藝社)

2 評価の実施方法

(1) 会議の公開・非公開について

公開で開催した。(傍聴者なし)

(2) 評価について

今期指定管理期間(令和3年度～令和7年度)の指定管理者を選定した際の選定基準等及び選出された(公財)神奈川芸術文化財団が提案した内容に沿って、提案どおり管理運営業務を行っているかの観点から、外部有識者に評価をしていただいた。

なお、委員にはあらかじめ、指定管理者が実施する公演をモニタリングしていただいた上で、評価をしていただいた。

(3) 委員会の評価点の決定方法について

出席した6名の委員の協議により、委員会として評価点を決定した。

3 評価の結果

(別表) 評価シートのとおり

評価
 S評価:極めて良好な管理運営状況
 A評価:良好な管理運営状況
 B評価:一部改善が必要な管理運営状況
 C評価:抜本的な改善が必要

[指定管理業務実績評価シート]

指定管理者募集時の選定基準				提案内容（事業計画書抜粋）		事業実績		評価
大項目	中項目	選定基準		（当時の評価） 配点	指定管理者募集時 （令和元年当時）の主な提案内容	指定管理期間 （令和3年度における事業実績）	実績に対する評価 （S～C）	
		小項目	評価の視点					
I （50） サービスの向上	1 指定管理業務実施にあたっての考え方、運営方針等	(1)	指定管理者としての基本方針等	(5) 5	<p>① 3館を一体とした指定管理業務全般に係る団体等の総合的な運営方針、考え方 (1)財団の「理念」と3つの「視点」 「神奈川芸術文化財団の理念」 ・私たちは、その想像力と創造性を活用し、芸術文化の価値を高めます。 ・私たちは、芸術文化の力で、地域に生きる人々の心を豊かにし、幸福な社会の実現に貢献します。</p> <p>3つの「視点」 ・視点1「革新性」 革新的な思考や活動を通じて、新しい価値とさまざまなあり方を認め合う、豊かで柔軟な社会の実現をめざします。 ・視点2「国際性」 国際的な創造発信を行ってきた「神奈川」という地域の特性を発揮します ・視点3「多様性」 基本的人権を尊重し、平和を希求する社会の実現に寄与します。</p> <p>②業務の一部を委託する場合の業務内容等</p>	<p>① 3館を一体とした指定管理業務全般に係る団体等の総合的な運営方針、考え方 ・第4期指定管理期間の初年度として、神奈川の芸術文化の創造と振興にさらに力を発揮していくため、財団としての「理念」、3つの「視点」、4つの「ミッション」を定め、これらを踏まえて指定管理業務を実施した。 ・主催事業においては、4つの「ミッション」に沿った事業を年間を通じて展開し、多彩で良質な鑑賞機会、芸術体験の機会を提供したほか、芸術の可能性を考察する取組、未来へつなぐ人材育成の取組等を多角的に実施した。 ・令和3年度も新型コロナウイルス感染症に伴う影響が生じたため、政府及び神奈川県の方針に基づき、主催事業の収容人数制限や時短の取組、施設維持管理事業における感染拡大防止対策を適宜実施するなど、指定管理業務に取り組んだ。また、感染症拡大防止の観点から、一部の有観客公演等の代替・補完手段として、令和2年度に引き続きオンライン配信を導入した。 ・第4期指定管理期間の重点テーマを踏まえ、音楽及び演劇の両分野の芸術監督、事業部長等を中心とした事業体制により、3館の一体的な事業運営を推進し効率的な運営を図った。 ・令和3年度より、社会と芸術をつなぐ窓口（＝ポータル）となる「社会連携ポータル」部門を財団本部に設置し、これまで3館が独自に取り組んできた「専門人材育成プログラム」、「学校教育へのアプローチ」、「あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ」、「地域との連携を強化する機能」を当該部門に集約して取り組む体制をスタートさせた。その結果、劇場をより開かれた場とするプログラムや地域連携の強化等を効果的に実施することができた。</p> <p>②業務の一部を委託する場合の業務内容等 ・施設・設備管理（維持管理、保安警備、清掃）、保守点検業務、舞台管理業務の一部は安全確保や設備機器の安定稼働等のため、専門業者への業務委託を行った。 ・より高い水準の文化事業を実施するため、専門性の高い公演等の事業制作、各事業の脚本や舞台美術等の一部の業務を専門業者や個人へ委託した。また来館者・利用者サービスの向上の観点から、会場案内等の一部の業務を来客対応の専門的ノウハウを持つ業者に委託した。</p>	A	
	2 施設の維持管理	(1)	施設及び設備の維持管理に関する業務	(4) 5	<p>① 3館を一体とした指定管理業務全般に係る団体等の総合的な運営方針、考え方 ・私たちは、その想像力と創造性を活用し、芸術文化の価値を高めます。 ・私たちは、芸術文化の力で、地域に生きる人々の心を豊かにし、幸福な社会の実現に貢献します。</p> <p>3つの「視点」 ・視点1「革新性」 革新的な思考や活動を通じて、新しい価値とさまざまなあり方を認め合う、豊かで柔軟な社会の実現をめざします。 ・視点2「国際性」 国際的な創造発信を行ってきた「神奈川」という地域の特性を発揮します ・視点3「多様性」 基本的人権を尊重し、平和を希求する社会の実現に寄与します。</p> <p>②業務の一部を委託する場合の業務内容等 ・施設の維持管理業務 ・施設・設備の保守点検業務 ・その他事業制作業務</p>	<p>○ 3館一体運営を踏まえた人員配置の工夫 ・施設管理、芸術劇場の舞台技術専門職員の経験・ノウハウ等を3館全体で共有</p> <p>○ 効率的な施設及び設備の保守点検、施設の清掃・保安警備等の維持管理業務についての実施方針 ・定期的な保守点検日の設定による施設保守 ・修繕計画策定に関する県への提案 ・委託先の選定は、原則として指名競争入札により選定 ・利用者サービス業務や専門性を必要とする業務については原則としてプロポーザル方式により実施 ・設備保守点検・保安警備業務の業者選定は、総合評価方式を含めた適切な方法により実施</p>	<p>○ 3館一体運営を踏まえた人員配置の工夫 ・県民ホール、神奈川芸術劇場、音楽堂の3館に施設維持管理及び舞台技術専門職員を置き、各館の催事の状況を踏まえ利用される方々のニーズに合った運営ができるようにした。それにより、3館運営の平準化を図った。</p> <p>○ 効率的な施設及び設備の保守点検、施設の清掃・保安警備等の維持管理業務についての実施方針 ・年間を通して、保守、清掃、衛生管理は協定書に定められたとおりあらかじめ日程を確保し実施した。それ以外に、施設の空き日や空き区分を利用し、効率的な保守点検や軽微な修理、突発的な故障の対応を各所との細かい調整を行いながら実施した。 ・開館から47年以上経過している県民ホールの老朽化は著しく、近年不具合事例が頻発していることから、不具合発生時にはただちに県と情報共有するとともに、月報などでの報告を行ったほか、今後の修繕計画について提案した。 ・開館から10年あまりの芸術劇場においても、舞台設備機構等に経年劣化が見られる。計画的な修繕や更新を念頭に置き、利用の調整、保守点検を実施した。 ・音楽堂においては、平成30年度に大規模改修を実施しているが、未改修の客席扉や張り出し舞台を支える脚部分に経年劣化が見られ、舞台設営の繰り返しによる劣化が懸念されるため、修繕計画を立て県に提案した。8月には県立図書館と共に県の指定重要文化財（建築物）への指定を受け、適切な管理の下、施設の長寿命化を念頭に入れた運営を行った。 ・施設維持管理に係る専門知識を要する業務については、令和2年度に総合評価方式による一般競争入札により選定した業者に業務を委託し、適切な管理運営を行った。</p>	A

評価
 S評価:極めて良好な管理運営状況
 A評価:良好な管理運営状況
 B評価:一部改善が必要な管理運営状況
 C評価:抜本的な改善が必要

[指定管理業務実績評価シート]

指定管理者募集時の選定基準				提案内容（事業計画書抜粋）		事業実績		評価
大項目	中項目	選定基準		（当時の評価） 配点	指定管理者募集時 （令和元年当時）の主な提案内容	指定管理期間 （令和3年度における事業実績）	実績に対する評価 （S～C）	
		小項目	評価の視点					
3	利用促進のための取組、利用者への対応、利用料金	(1)	3館一体運営を踏まえた事業実施、サービス向上等の取組	①3館の特性を最大限に活かした、バランスの取れた文化芸術事業の総合的な企画・制作についての実施方針、内容等	①3館の特性を最大限に活かした、バランスの取れた文化芸術事業の総合的な企画・制作についての実施方針、内容等 ・県民ホール：上質でバラエティ豊かな事業を展開 ・芸術劇場：新たな芸術監督のもと、創造型劇場としての多様なプログラムを「プレシーズン」、「メインシーズン」の2つに分けて展開 ・音楽堂：音楽専用ホールとして、音楽堂室内オペラプロジェクトや「新しい視点」シリーズ等の音楽事業を展開 ・社会連携ポータル機能：①専門人材育成プログラム、②学校教育へのアプローチ、③あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ、④地域との連携を強化する機能、の4つの機能に分けて「あらゆる人々へ開かれた場」「地域との連携の強化」の実現を目指す ②3館の広報等の共通業務の一体化による運営の内容等 ・広報営業関係の業務について、3館一体で取り組むべき領域と3館がその個性・特性を生かして個別に追求する領域を区分 ・3館・本部に分かれている広報機能・営業機能を段階的に統合することでコストダウンと広報絵企業部門の強化 ・「神奈川アーツプレス」のリニューアル ・スポンサー獲得やクラウドファンディング等の活用に向け企画を検討し、外部資金の獲得を図る他、寄付金を活用した子ども向け事業等の拡充を図る	①3館の特性を最大限に活かした、バランスの取れた文化芸術事業の総合的な企画・制作についての実施方針、内容等 ・財団の4つのミッション「創造に挑む」「感動を分かち合う」「つねに考える」「未来につなぐ」を念頭に感染症対策、それに伴う入場制限等様々な影響がある中、3館の施設の特性を生かした企画を行った。 （県民ホール） 小ホール事業「C×」（シーバイ）シリーズを開始し、小ホール事業全体の通しテーマとした。その象徴的な公演として、気鋭の作曲家と演奏家のコラボレーションによる「C×C作曲家が作曲家を訪ねる旅」を2回にわたり実施した（11月6日にVol. 1 山本裕之×武満徹 1月8日にVol. 2 川上統×サン＝サーンス。）。オルガン公演では、新たなオルガンアドバイザー中田恵子氏のもと、「C×Organ」シリーズも実施し、プロムナードコンサートも従来の昼休みの時間のほか、アフタヌーンプロムナード、ナイトプロムナードなど時間帯や内容を変え、安価での有料公演とし、オルガンコンサートの幅を広げることに挑戦した。新型コロナウイルス感染症の影響で、前年度はやむなく中止となったオープンシアターを再開。万全な感染対策を施した上、大ホールでは「音楽をめぐる世界の旅 ガラコンサート」、小ホールでは、「音楽のおくりもの オルガンとカウンターテナーのハーモニー」、ギャラリーでは、對木裕里展「手のたびではいっておいで」を実施し、多くの方々に鑑賞機会を提供した。毎年恒例のファンタスティックガラコンサートでは、指揮者に三ツ橋敬子氏を迎え新たな感動を生むコンサートとなった。ギャラリーにおいては、気鋭の作家による「ミヤケマイ×華雪 ことばのかたち ことばのことば」を実施し、全室を使いその独特な世界を紹介した。共催事業として、横浜市と連携してDance Dance Dance@YOKOHAMA2021を3公演を実施し、躍動する身体表現の世界を紹介し、また、松山バレエ団の『くるみ割り人形』など上質なバレエ公演を実施した。 （神奈川芸術劇場） 新芸術監督として長塚圭史氏を迎え、①劇場を「ひらいて」いくこと、②シーズン制を設けること、③創作環境と劇場の未来を考えること、の3つの方針を掲げ、多様なプログラムの発信に取り組んだ。プレシーズンの公演として、4月にはアトリウムに仮設劇場を組み、長塚芸術監督演出で新ロイヤル大衆堂との共同制作による「王将」一三部作一を実施し、普段、劇場に触れる機会の少ない人々にも劇場を体験できる場を提供した。KAATキッズ・プログラム2021「ククノチテクテクマナツノボウケン」の創作作品の他、「ボルノグラフィ」、「末練の幽霊と怪物—『控波』『敦賀』—」は高い評価を受けた。9月からのメインシーズンではテーマを「冒」と掲げ、長塚芸術監督演出のホール公演「近松心中物語」はこれまでのイメージを覆す演出を行い、「ラビットホール」では海外戯曲を日本語戯曲として創作上演した。KAAT EXHIBITION 2021「志村信裕展 遊動」では舞台照明と映像表現を融合した展覧会となった。 劇場を「ひらく」取組として、カナガワツアープロジェクト「冒険者たち～JOURNEY TO THE WEST～」を神奈川芸術劇場を起点として、県内の公共施設での巡回公演を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、やむなく2会場での公演が中止となったが、川崎、相模原、小田原、横須賀と文字通り県内を旅する公演として実施した。また、過年の人気公演であった、白井晃前芸術監督演出の「アルトゥロ・ウイの興隆」を再演し、多くの観客を魅了し、未来につなぐ公演のひとつとなった。 「創作環境と劇場の未来を考える」取組としては、今年度から新たに開始した「カイハツ」が挙げられる。①企画・人材カイハツ、②創作プロセスカイハツ、③戯曲カイハツ、を3本の柱としてオンラインや、アトリエにて8企画を実施した。今後も継続的に取組を行っていく。その他、ホール、スタジオ、アトリエ、アトリウムと劇場内の様々な空間を活かし、KAATフレンドシッププログラムとして、バックステージツアーや、横浜中華街との連携で春節ランタンオブジェの展示、横浜国際舞台芸術ミーティング2021 (YPAM2021)、KAAT DANCE SERIES 2021「イスラエル・ガルバン 春の祭典」など多彩なプログラムを発信した。		
			①P19～38 ②P39～41					

評価
 S評価:極めて良好な管理運営状況
 A評価:良好な管理運営状況
 B評価:一部改善が必要な管理運営状況
 C評価:抜本的な改善が必要

[指定管理業務実績評価シート]

指定管理者募集時の選定基準				提案内容（事業計画書抜粋）		事業実績		評価
大項目	中項目	選定基準		(当時の評価) 配点	指定管理者募集時 (令和元年当時) の主な提案内容	指定管理期間 (令和3年度における事業実績)		実績に対する評価 (S~C)
		小項目	評価の視点					

(音楽堂)
 音楽専用ホールとしての質の高さを示す「音楽堂ヘリテージ・コンサート」は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、海外アーティストの来日が困難な状況が続き、公演中止を余儀なくされた。その中でサントリーホールと共同招聘した「アンサンブル・アンテルコンタンポラン」は多数の観客に登場していただき好評を得た。「音楽堂室内オペラ・プロジェクト」においては、気鋭の作曲家ブルーノ・ジネールによる「シャルリー〜茶色の朝」を日本で初めて公演した。ワークショップやインターンシッププログラムも関連企画として実施し、WEB批評サイトにおいて年間企画賞1位を獲得した。新企画として、「子どもと大人の音楽堂」と題して、7月に子ども編「大友良英スペシャルビッグバンド初登場! みんなー! たのしい音楽始めるよ、あつまれー!」を、3月に大人編「音楽堂のピクニック」を実施した。後者では、ホールとホワイエ全館を使い、邦楽創造集団オーラJ、志人×内橋和久をはじめ様々なアーティストが集い、従来のクラシック公演では来場しなかった人々がフェスティバルのような雰囲気音楽を楽しむ姿が見られた。また、気鋭のアーティストたちの次代を拓く企画を実現させようとするプログラム「新しい視点-紅葉坂プロジェクト」では、企画の公募、審査を経て採択された企画を、ワーク・イン・プログレスにより公開、一般聴衆からの意見もいただくブラッシュアップの場を提供した。長年音楽堂で親しまれてきた「音楽堂メサイア」は、新型コロナウイルスの影響により、大人教での合唱公演の実施が難しい状況であったことから、クリスマス曲などで構成された特別演奏会「アドヴェント・コンサート」を代替開催し、併せて翌年度の「音楽堂メサイア」の指揮者となる大塚直哉氏を講師としたワークショップも開催し、合唱人の思いをつないだ。音楽堂で長きに渡って取り組んでいる「音楽堂アウトリーチ」では、新型コロナウイルス感染症の影響も受けつつ、座間市、厚木市、川崎市、横須賀市の小学校に出向いて実施できた。また、本年度から開始した「先生のためのアウトリーチ」は新型コロナウイルス感染症の影響でリアル開催は断念したが、映像をオンライン配信し、令和4年度に続く取組となった。

(社会連携ポータル機能)
 「あらゆる人々へ開かれた場」、「地域との連携の強化」の実現を目指すため、財団本部に社会連携ポータル課を新設し、他課職員と協力し、次の4つのアプローチに取り組んだ。

①専門人材育成プログラムにおいては、「KAAT舞台技術講座2021」として舞台で働く全ての人に共通理解を深める実践を交えた講座を、県民ホールでは、劇場運営マネジメント講座「ウェブアクセシビリティ」を実施した。各館におけるインターンシッププログラムとして、「公共ホールでの文化事業の実習」、「劇場運営インターン」、「舞台技術インターン」、「室内オペラ制作・広報インターン」を受け入れた。②学校教育へのアプローチとしては、芸術劇場では、新設された神奈川総合高校舞台芸術科の校外実習、音楽堂では、前述の県内小学校へのアウトリーチや先生のためのアウトリーチをオンラインで実施した。その他東京音楽大学、昭和音楽大学などの教育機関と連携したプログラムも行った。③インクルーシブアプローチとしては、各館の主催事業において、ポータブル字幕機による字幕提供、手話通訳士による受付サポート、開演前の事前レクチャー、UDトークによる文字情報の提供、点字曲目リストの配布などの取組を行った。④地域との連携を強化する機能としては、県民ホール公演オペラ「ヘンゼルとグレーテル」やKAAT公演「冒険者たち〜JOURNEY TO THE WEST〜」などの巡回公演を通して県域に舞台芸術を発信した。

②3館の広報等の共通業務の一体化による運営の内容等
 ・令和3年度に情報誌「神奈川芸術プレス」を大幅にリニューアルし、財団の主催・共催事業の広報のみならず、県民により深く芸術文化への理解や親しみをもってもらうため、読み物の要素も加味し内容を充実したものとし、人材育成やインクルーシブも含め様々な視点をもって発信した。
 ・広報・営業機能の強化については、未来の機能的な統合を視野に入れ、3館の広報担当者間での情報交換及び共有を推進した。
 ・令和2年度にリニューアルした各館のホームページは、令和3年度も引き続き細かな修正を行い、更に使いやすく見やすいホームページにした。今後さらに、やさしい日本語、ウェブアクセシビリティ、多言語化についても検証し、発展させていく。
 ・法人賛助会員及び個人賛助会員の会費を、ひらかれた劇場をつくるために、主催事業の「オーパシアター2021」、「みんなであのしむオペラ「ヘンゼルとグレーテル」」、「王将」三部作一、「アドヴェント・コンサート」、「子どもと大人の音楽堂」、その他の事業の経費の一部に充当した。

評価
 S評価:極めて良好な管理運営状況
 A評価:良好な管理運営状況
 B評価:一部改善が必要な管理運営状況
 C評価:抜本的な改善が必要

[指定管理業務実績評価シート]

指定管理者募集時の選定基準				提案内容（事業計画書抜粋）	事業実績	評価	
大項目	中項目	選定基準		（当時の評価） 配点	指定管理者募集時 （令和元年当時）の主な提案内容	指定管理期間 （令和3年度における事業実績）	実績に対する評価 （S～C）
		小項目	評価の視点				
I サービスの向上 (50)	3 利用促進のための取組、利用者への対応、利用料金	(2)	県の文化行政と一体化した自主事業の実施に関する業務	(24) 30	①かながわ文化芸術振興計画に基づくマダカル事業等文化行政の着実な推進のための県行政との一体的な取組方針等 <ul style="list-style-type: none"> かながわ文化芸術振興計画の重点施策に沿った取組を行う。 伝統×文化：伝統芸能にかかわる公演の実施や鑑賞・発表機会の確保、芸術劇場における新たな作品創造の中での古典芸能等の視点の取り入れ、音楽堂での伝統音楽も含めたプログラムの取組など。 共生×文化：社会連携ポータル部門を立ち上げてアウトリーチ、育成、インクルーシブ、地域連携等の取組を集約させて活動を充実化。 国際×文化：国外の優れたオペラ等の上演、国際舞台芸術ミーティング等の実施、海外の舞台芸術フェスティバル等への職員派遣等の実施。 東京2020大会×文化：財団全体として、施設利用や鑑賞における多言語対応・障がい者対応、芸術創造等における協働など、あらゆる人々に向けた文化施設・文化事業となるように取り組む。 施設×情報発信×文化：専門職員の配置や人材育成、芸術系大学との連携、3館全体での情報発信等に取り組む。 文化課事業への協力のほか、観光課、国際課、スポーツ局、福祉子どもみらい局等の県各部署とも連携した事業の取組等を行う。 	①かながわ文化芸術振興計画に基づくマダカル事業等文化行政の着実な推進のための県行政との一体的な取組方針等 <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度においては、かながわ文化芸術振興計画の重点施策を踏まえ、主に以下のような取組を実施した。 社会連携ポータル部門において、一部主催公演における鑑賞サポート（ポータル字幕機の提供、点字プログラムの作成、手話通訳の配置等）の実施、県民ホール「オープンシアター2021」におけるやさしい日本語による案内文の作成や英語、中国語、韓国語を話せるスタッフの配置[共生×文化][東京2020大会×文化] 神奈川芸術劇場「横浜国際舞台芸術ミーティング2021(YPAM2021)」の開催による国際交流、音楽堂「室内オペラ「シャルリエ〜茶色の朝」」の招聘による国際協働[国際×文化] 社会連携ポータル部門において、舞台技術講座、劇場マネジメント人材育成講座、インターンシップ等の専門人材育成プログラムの実施、昭和音楽大学、東京音楽大学、横浜国立大学等と連携した講座、実習プログラム等の実施[施設×情報発信×文化] 県文化課との事業連携として、主催事業の多くにおいて、県の実施する「beyond2020」、「神奈川文化プログラム」の承認を得た上で実施したほか、「東京2020NIPPONフェスティバル」関連プログラムを共催として実施した。また、かながわ国際交流財団（国際課）と連携した「やさしい日本語」に関する講座の実施、神奈川総合高校舞台芸術科の校外学習への協力（神奈川芸術劇場の施設見学、芸術監督質疑応答）等、県の他部署と連携した取組を行った。 	S
			②東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした中長期的視点による文化芸術施策を大会終了後もレガシーとして引き続き推進していくための本県の文化拠点施設としての役割を踏まえた自主事業の実施方針、内容等 <ul style="list-style-type: none"> 3館それぞれの個性・特性を打ち出した文化事業の企画立案を実施するとともに、子供から高齢者、障がい者、多言語の方々等様々な方々の鑑賞支援や参加できる企画の実施等に取り組む。 		②東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした中長期的視点による文化芸術施策を大会終了後もレガシーとして引き続き推進していくための本県の文化拠点施設としての役割を踏まえた自主事業の実施方針、内容等 <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症に対する国及び県の基本方針等に基づき、感染対策を徹底し、財団主催公演における収容人数を制限するなどの対応を行った。その上で、当財団のミッションを踏まえ、各施設において創造性の高い公演や展覧会等の開催、県内各地への巡回公演を行うとともに、アウトリーチ等の学校教育へのアプローチ、専門人材の育成事業等、様々な観点から各種事業を展開し、拠点施設として多くの人々に当財団の主催事業を届けることができた。 令和3年度より財団本部に社会連携ポータル部門を新設し、ユニバーサルデザイン化を視野に入れた事業や研修の実施、鑑賞サポートの導入等、あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチに取り組んだ。今後もこれらの取組を継続していくことにより、劇場が多くの人々にとって開かれた場となり、共生社会の実現に寄与することを目指していく。 		
			③長期継続的視点、高度・専門的知識の蓄積・活用を踏まえた自主事業の実施方針、内容等 <ul style="list-style-type: none"> 専門人材の人的ネットワークや専門知識等を活用し、事業実施、検証、改善、評価検証の繰り返しにより、時代にあったコンテンツを創っていくよう取り組む。 県民ホールではオペラ、バレエ、オルガンなどを含む室内楽を多様多彩に展開し、芸術劇場ではシーズン制、年毎のテーマ設定など多様なラインナップを予定する。音楽堂では「室内楽」に焦点を当てたシリーズを実施する。 		③長期継続的視点、高度・専門的知識の蓄積・活用を踏まえた自主事業の実施方針、内容等 <ul style="list-style-type: none"> 芸術総監督及び芸術監督の幅広い知見に基づく指導の下、各施設のミッションと特性、指定管理者である財団全体の財政状況、県との指定管理協定の状況や財団における組織的課題なども踏まえつつ、専門知識を持つ事業部長及び現場担当職員の会議を通して具体化する形で、自主事業を構築した。事業の統括責任者である事業部長は、芸術総監督及び芸術監督には適時にフィードバックし、調整を行い、主催事業の内容（音楽ではラインナップのバランス、出演者、作曲者、曲目等/演劇では演目、クリエイティブリーダー、公演時期、規模）の決定を主導した。それにより、両芸術監督の考える、芸術の果たすべき社会的な役割、観客と共有すべき芸術体験などを強く反映したプログラムの策定が実現できている。 県民ホールでは、令和3年度より「Composer, Classic, Contemporary」というキーワードで再構成する「CX」（シーバイ）という一貫したテーマを取り入れることにより、従来の室内楽、オルガン、バロックのプログラム構成をブラッシュアップし、独創性を示した。 神奈川芸術劇場では、令和3年度より新たに芸術監督に就任した長塚圭史氏の下、豊かなプログラムを提供する枠組みとしてシーズン制（プレシーズン、メインシーズン）を設け、多様な作品制作とその発信に取り組んだ。9月からのメインシーズンにおいては、毎年度テーマを掲げ、時代や劇場の動性を表現し、そのテーマから想起される作品をラインナップすることとし、令和3年度はテーマを『冒』として、それぞれの事業を展開した。 		

評価
 S評価:極めて良好な管理運営状況
 A評価:良好な管理運営状況
 B評価:一部改善が必要な管理運営状況
 C評価:抜本的な改善が必要

[指定管理業務実績評価シート]

指定管理者募集時の選定基準				提案内容（事業計画書抜粋）		事業実績		評価
大項目	中項目	選定基準		(当時の評価)配点	指定管理者募集時(令和元年当時)の主な提案内容	指定管理期間(令和3年度における事業実績)		実績に対する評価(S~C)
		小項目	評価の視点					
					<p>④外部資金獲得に向けた取組内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化庁補助金や一般財団法人地域創造等の助成金、民間の芸術助成財団からの助成金、法人や個人からの寄付金・協賛金の獲得、クラウドファンディングの利用等に取り組む。 	<p>・音楽堂では、ホールの音響、空間等の特徴をより強く打ち出す根幹事業として、「音楽堂室内オペラ・プロジェクト」と「音楽堂ヘリテージ・コンサート」の2つの枠組みを構築して公演を展開した。令和3年度においてはコロナ禍であるものの、「シャルリー〜茶色の朝」「アンサンブル・アンテルコンタンポラン」といった海外のアンサンブルや演奏家の招聘による公演を成功させ、室内楽ホールとして質の高い公演を実施することができた。その一方で、新しい時代に向けたホールの在り方の検討や企画を模索するための取組に着手した。従来のホール公演にとどまらない「子どもと大人の音楽堂」「新しい視点」などの企画がそれにあたり、長期的な視野での取組をスタートさせた。</p> <p>④外部資金獲得に向けた取組内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化芸術振興費補助金「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」では、県民ホールと神奈川芸術劇場が一体で「劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業」に採択され、音楽堂が「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」に採択された。 新型コロナウイルス感染症拡大への対応として立ち上げられた補助金として、J-LODive2（経済産業省）、ARTS for the future!（文化庁）、感染症防止対策事業（文化庁）等を積極的に獲得し、事業・施設運営の両面において活用した。 賛助会員制度の運営においては、コロナ禍にも関わらず引き続き多くの会員から継続して寄付を頂いた。令和3年度も、昨年度に引き続き中止となった公演のチケット料金を寄付していただく制度を導入し、一定の寄付金を集めた（中止となった公演のチケット料金の寄付：16件、119千円）。 		
		<p>①より多くの利用を図るための運営方針、内容等</p> <p>②より多くの利用を図るために行う広報・PR活動の内容等</p> <p>③サービス向上のために行う利用者ニーズ・苦情の把握及びその内容の事業等への反映の仕組み等</p>	<p>①P51～53</p> <p>②P57</p> <p>③P58～59</p>	<p>①より多くの利用を図るための運営方針、内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者サービスのユニバーサルデザイン化、利用者・来館者へのサービス向上、誰でも来やすい文化施設づくり、ラインナップの充実等に取り組む。 <p>②より多くの利用を図るために行う広報・PR活動の内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> 常設看板等での案内のほか、KAATバックステージツアーや音楽堂前川建築見学ツアーの開催、賑わいを持った空間づくり、フィルムコミッションとの連携強化等に取り組む。 <p>③サービス向上のために行う利用者ニーズ・苦情の把握及びその内容の事業等への反映の仕組み等</p> <ul style="list-style-type: none"> 来場者アンケートや利用者懇談会の開催により、いただいた意見を「見える化」し、関係者共有と対応を進める。 	<p>①より多くの利用を図るための運営方針、内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去3期の指定管理期間に積み上げたノウハウを引き続き利用者・来館者サービス向上に活かした。 新型コロナウイルス感染症対策として、館内にサーモカメラ、消毒液の設置、各館の対策を観客に掲示するほか、各館で策定したガイドラインを国、県の方針に応じて改定した。また客席、舞台、長机、ロッカーなど各館の状況に合わせて施設や設備の抗菌コートなどを施工した。 利用に係る施設予約システムのフロントを、明朝体からUD(ユニバーサルデザイン) フォントに、併せて県民ホール会議室のワイヤレスマイクやプロジェクターなどの設備利用の利用料金内訳をより分かりやすい表記にした。 また、ホームページにおいては、「多言語化(自動翻訳機能)」や「やさしい日本語」を付加し、日本語を母国語としない方にもアクセスしやすいようにした。 <p>②より多くの利用を図るために行う広報・PR活動の内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民ホールの正面広場での撮影希望は企画内容を確認の上、施設利用に影響がない範囲で協力した。 県民ホール、音楽堂で空き日の場合は、撮影利用も対応した。 施設で行われる催物にかかわらず、開放された空間を持つ県民ホール、神奈川芸術劇場では、デジタルサイネージを設置した。また、3館ともにチラシコーナーを設け主催事業だけでなく、各施設で行われる様々な催物また近隣の公演等の情報提供に寄与した。 神奈川芸術劇場では、KAATバックステージツアー、音楽堂では、前川建築見学ツアーin音楽堂をボランティアグループの協力の上、ガイド付きツアーを年4回実施し好評であった。また、県民ホールでは、5月に行われた主催事業のオープンシアター2021と併せてバックステージツアーを開催し、ホールの魅力を伝える機会とした。 <p>③サービス向上のために行う利用者ニーズ・苦情の把握及びその内容の事業等への反映の仕組み等</p> <p>主催、共催事業では、来場者アンケートを実施したほか、館内にアンケートボックスを設置し、各館ホームページでは、WEBアンケートを実施した。アンケート結果は随時情報共有し、改善可能な事項は即座に業務に反映した。</p>			

評価
 S評価:極めて良好な管理運営状況
 A評価:良好な管理運営状況
 B評価:一部改善が必要な管理運営状況
 C評価:抜本的な改善が必要

[指定管理業務実績評価シート]

指定管理者募集時の選定基準				提案内容（事業計画書抜粋）	事業実績	評価	
大項目	中項目	選定基準		（当時の評価） 配点	指定管理者募集時 （令和元年当時）の主な提案内容	指定管理期間 （令和3年度における事業実績）	実績に対する評価 （S～C）
		小項目	評価の視点				
I （50） サービスの向上	3 利用促進のための取組、利用者への対応、利用料金	(3) サービス向上及び利用促進の取組	④障がい者への配慮（手話言語条例への対応など） ⑤外国人観光客等への対応 ⑥貸館事業の実施方針、内容等 ⑦利用料金の設定、減免の考え方 ※指定管理期間中の年度の目標利用率、目標入場者数及び目標利用料金	④P60～61 ⑤P62 ⑥P63～64 ⑦P65 ※P54～56	④障がい者への配慮（手話言語条例への対応など） ・施設ハード面での使いやすさの向上、ユニバーサルフォントの使用や点字版パンフレットの作成、筆談対応の充実、字幕タブレットや音声ガイドの貸出などに取り組む。 ⑤外国人観光客等への対応 ・HPでの主催公演の概要の日英併記やフリーWi-Fiの整備、英語・中国語・韓国語対応が可能なレセプションistの配置等を行う。 ⑥貸館事業の実施方針、内容等 ・鑑賞ニーズの高い公演や一流の公演、長期貸館の積極的誘致、良質な演奏会等の貸館への特例利用制度の活用等に取り組む。 ⑦利用料金の設定、減免の考え方 ・条例に基づく利用料金の設定、利用料金規程に基づく減免制度を実施する。 ※指定管理期間中の年度の目標利用率、目標入場者数及び目標利用料金 ・県民ホール 令和3年度 利用率82.0% 入場者数654,000人 利用料金収入252,000千円 令和4年度 利用率82.0% 入場者数654,000人 利用料金収入252,000千円 令和5年度 利用率82.0% 入場者数654,000人 利用料金収入252,000千円 令和6年度 利用率82.0% 入場者数654,000人 利用料金収入252,000千円 令和7年度 利用率82.0% 入場者数654,000人 利用料金収入252,000千円 ・神奈川芸術劇場 令和3年度 利用率83.0% 入場者数215,000人 利用料金収入155,000千円 令和4年度 利用率83.5% 入場者数220,000人 利用料金収入160,000千円 令和5年度 利用率84.0% 入場者数225,000人 利用料金収入165,000千円 令和6年度 利用率84.5% 入場者数230,000人 利用料金収入170,000千円 令和7年度 利用率85.0% 入場者数235,000人 利用料金収入175,000千円 ・音楽堂 令和3年度 利用率85.0% 入場者数166,000人 利用料金収入36,000千円 令和4年度 利用率85.0% 入場者数166,000人 利用料金収入36,000千円 令和5年度 利用率85.0% 入場者数166,000人 利用料金収入36,000千円 令和6年度 利用率85.0% 入場者数166,000人 利用料金収入36,000千円 令和7年度 利用率85.0% 入場者数166,000人 利用料金収入36,000千円	④障がい者への配慮（手話言語条例への対応など） 施設ハード面での使いやすさの向上を図るほか、財団本部に社会連携ポータル部門を立ち上げ、障がいを持つ方々と、感動を分かち合う取組を重点的に開始した。 来場者対応として、県民ホールや神奈川芸術劇場の一部の主催事業において、手話通訳士による案内サポート、やさしい日本語での公演パンフレットの作成、開演前の事前レクチャー、点字曲目リストの配布、めがね型やスマートフォン型の字幕機による字幕提供、UDトークによる文字情報の提供などを行った。 併せて、職員向け研修として、音楽堂では車いすユーザーの視点によるバリアチェック、県民ホール小ホールでは視覚障がい者を迎えるときに必要な案内方法の研修を行った。 催事の有無にかかわらず、人流のある県民ホールロビー2階チケットかながわのブースや事務所利用受付付近には、筆談対応が出来るよう筆談機や小型のホワイトボードを設置している。また、施設利用担当職員に筆談のトレーニングを受けた従事者を配置している。 ⑤外国人観光客等への対応 新型コロナウイルス感染症の影響により、各館とも外国人観光客に対する機会は少なかったが、県民ホールのオープンシアター2021においては、外国籍県民のために多言語対応スタッフを配置した。 ⑥貸館事業の実施方針、内容等 貸付要領を遵守しながら、各館における公演の利用実績を考慮し、それぞれの施設の特徴を生かした特例利用及び利用調整を行った。県民ホール、音楽堂において、毎年行っている良質かつ鑑賞ニーズが高い公演については、一般に公開する抽選対象日を一定数確保しつつ、内外の有識者の助言を受け適切な調整を年間を通して行った。 ⑦利用料金の設定、減免の考え方 神奈川県県民ホール条例及び神奈川県立音楽堂条例に基づき、定められた上限額以内に利用料金を設定。午前、午後、夜間と3区分に分け、催事の設営や準備を実施する区分においては、「利用料金を徴収しない場合の利用料金区分の70%」に設定し、利用者の方の負担軽減を図っている。共催事業については、貸付要領に定められた利用日数を元に利用料金の減免を実施し、長期貸出を積極的に行っている神奈川芸術劇場においても同様に減免した。 また、本公演や催事前の別の日にリハーサルや準備で利用する場合も、貸付要領に基づき施設及び設備料金を減免した。 県民ホール小ホールにおいて、パイプオルガンの練習利用の希望があった場合、施設利用料金を減免し、練習の機会を提供した。 前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、経営改善計画における利用率、入場者数、利用料金収入の目標値設定を変更し、管理運営を行った。4月1日～9月30日までは政府により「まん延防止等重点措置」、「緊急事態宣言」の発出があり、10月1日～10月24日「リバウンド防止期間」、10月25日～11月30日「基本的対策徹底期間」、令和4年1月21日～3月21日「まん延防止等重点措置」の適用と、年間を通してほとんどの期間に新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。プロの利用が多くを占める神奈川芸術劇場では、主催者が感染対策を徹底し、前年度と比較して公演実施数、入場者数の回復が見られた。県民ホールでも主催者が対策をとり催事を中止にせず実施する公演は回復傾向であったが、公演によっては、政府や県の方針に従い、入場者数を控える主催者もあり、全体的な入場者目標に影響を与えた。音楽堂においては、利用者の多くがアマチュアや学校関係者であり、利用料金納入の時期も利用月の1か月前であるため、直前での利用取消し後、新規利用が入らないケースが多く、利用料金収入が伸び悩んだ。また、主催公演では、外国人アーティストの来日が難しいことにより公演中止となることが多く、事業収入、入場者数共に大きな影響があった。	
				(1) 通常時の安全管理	○通常時の安全管理 ○通常時の指定管理業務を行う際の事故防止等の取組内容	P66～67 ○通常時の指定管理業務を行う際の事故防止等の取組内容 ・日常的な安全対策・災害対策・防犯対策の他、舞台技術専門職員の配置や機器等保守点検の実施、情報セキュリティ対策としての職員教育等を行う。	○通常時の指定管理業務を行う際の事故防止等の取組内容 ・施設維持管理担当職員による日常的な施設内の見回り及び安全点検により微細な変化にも目を配り重大な事故を未然に防いでいる。また、3館とも舞台技術専門職員を配置しており、日々舞台の状態を把握し、機器の保守点検や修理により、催事当日に支障が生じないように管理している。利用に伴う事故防止として、各館とも、施設利用者と利用日当日まで、利用者からの疑問や問合せに丁寧に対応し、また舞台従事者も加わった事前打合せを必ず実施することにより、未然に事故発生リスクを低減し、催事当日安全な進行が出来るようにしている。

評価
 S評価:極めて良好な管理運営状況
 A評価:良好な管理運営状況
 B評価:一部改善が必要な管理運営状況
 C評価:抜本的な改善が必要

[指定管理業務実績評価シート]

指定管理者募集時の選定基準				提案内容（事業計画書抜粋）		事業実績		評価
大項目	中項目	選定基準		（当時の評価） 配点	指定管理者募集時 （令和元年当時）の主な提案内容	指定管理期間 （令和3年度における事業実績）		実績に対する評価 （S～C）
		小項目	評価の視点					
I サービスの向上 (50)	4 事故防止等安全管理	(2)	緊急時の対応	(3) 5	①事故・不祥事・災害等の緊急事態が発生した場合や安全管理の妨げとなりうる事案を認知した際の対応方針 ・災害対応マニュアルを3館に整備し、職員・スタッフに徹底するほか、緊急対応サバイバルガイドを整備し、事故発生時には人命を最優先に対応する。 ・個人情報漏えい事故発生時には被害拡大を防止する策を講じるとともに公表する。 ②急病人等が生じた場合の対応救急救命士の配置、救命に対する職員研修	①P68～69 ②P70	①事故・不祥事・災害等の緊急事態が発生した場合や安全管理の妨げとなりうる事案を認知した際の対応方針 ・災害対応マニュアルに従事者が常に見られる位置に配置し、非常時に迅速に対応できる態勢をとった。不測の事態や救急対応が発生した場合、直ちに財団本部、県文化課にFAX、電話などで情報を共有し、必要に応じて指示を仰ぐ体制で業務を行った。 ②急病人等が生じた場合の対応救急救命等の配置、救命に対する職員研修 ・各館において定期的に行っている避難訓練等、各館の利用形態に合った訓練を実施した。県民ホールではトランシーバーの利用方法に特化した訓練を実施し、非常時に効率的かつ的確な連絡体制を取れることを重視した。神奈川県芸術劇場は、NHK横浜放送局と合同の避難訓練のほかAED研修会も取り入れた。音楽堂は、例年、青少年センター、県立図書館と合同で避難訓練を実施しているが、令和3年度は合同での訓練は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったため、単独でAED研修会を行った。	A
	5 地域と連携した魅力ある施設づくり	(1)	地域との連携、地元企業への業務委託等	①地域人材の活用、地域との協力体制の構築及びボランティア団体等の育成・連携の取組内容 ・神奈川県を中心に活動する神奈川フィルハーモニー管弦楽団と引き続き提携するほか、音楽堂周辺の紅葉ヶ丘等の近隣文化施設と連携した地域活性化、大学と連携した人材育成、横浜市の文化施設や財団との情報共有や事業における連携等を行う。 ②東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした中長期的視点による文化芸術施策を大会終了後もレガシーとして引き続き推進していくための地域との連携の取組内容 ③地元企業等への業務委託による迅速かつきめ細かいサービスの提供に向けた取組内容	(4) 5 P71～74	①地域人材の活用、地域との協力体制の構築及びボランティア団体等の育成・連携の取組内容 ・神奈川県を中心に活動する神奈川フィルハーモニー管弦楽団と引き続き提携するほか、音楽堂周辺の紅葉ヶ丘等の近隣文化施設と連携した地域活性化、大学と連携した人材育成、横浜市の文化施設や財団との情報共有や事業における連携等を行う。 ②東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした中長期的視点による文化芸術施策を大会終了後もレガシーとして引き続き推進していくための地域との連携の取組内容 ・計画に項目なし。 ③地元企業等への業務委託による迅速かつきめ細かいサービスの提供に向けた取組内容 ・清掃、警備等の委託について地域企業を優先して採用する。	①地域人材の活用、地域との協力体制の構築及びボランティア団体等の育成・連携の取組内容 ・県民ホールは、神奈川県公立文化施設協議会会長館として、県内の公立文化施設の情報交換の場、研修の場を提供し、その中心的責務を担った。 ・県民ホール、音楽堂では、引き続き県内外で活躍している神奈川フィルハーモニー管弦楽団と連携し、定期演奏会など公演の多くを共催事業と位置付け、一般に先駆けて日程調整を行い、県民ホールの主催公演であるオープンシアターやファンタスティックガラコンサートにおいても同楽団に演奏を依頼した。 ・横浜みなとみらいホールが改修工事で休館の期間は、同ホールの代替施設としての役割を果たすため可能な限り公演を受け入れ、日程調整を行うなど、協力体制を強化した。 ・同様に、横浜市との共催で、Dance Dance Dance@YOKOHAMA2021公演を県民ホール及び神奈川県芸術劇場で行い、東京バレエ団をはじめ質の高いバレエやダンス公演を提供した。 ・音楽堂では、青少年センター、県立図書館、横浜能楽堂、市民ギャラリーと連携した「紅葉ヶ丘まいらん」を継続して行い、地域の活性化を目指し活動した。 ②東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした中長期的視点による文化芸術施策を大会終了後もレガシーとして引き続き推進していくための地域との連携の取組内容 ・令和3年度に新設した社会連携ポータル部門を軸に、既存のネットワークを生かしながら巡回公演の設定など地域との連携づくりに取り組んだ。 ③地元企業等への業務委託による迅速かつきめ細かいサービスの提供に向けた取組内容 ・清掃、警備、施設維持管理、ネットワークシステム関連業務については、横浜市内の企業に業務を委託し、迅速に連携できる体制を取った。	A
II 管理経費の節減等 (25)	6 節減努力等	(1)	事業計画等との関係	(25) 25	収支計算書及び経費積算内訳書を基に判断 <提案額（単位：千円）> 令和3年度：1,506,000（本館：622,614、KAAT：668,582、音楽堂：214,804） 令和4年度：1,506,000（本館：623,978、KAAT：665,617、音楽堂：216,405） 令和5年度：1,506,000（本館：626,466、KAAT：661,931、音楽堂：217,603） 令和6年度：1,506,000（本館：627,783、KAAT：658,967、音楽堂：219,250） 令和7年度：1,506,000（本館：630,653、KAAT：654,954、音楽堂：220,393）	P74	※提案時の指定管理料内で業務を行っている。	A ※提案時の指定管理料内での業務を行っている。

評価
 S評価:極めて良好な管理運営状況
 A評価:良好な管理運営状況
 B評価:一部改善が必要な管理運営状況
 C評価:抜本的な改善が必要

[指定管理業務実績評価シート]

指定管理者募集時の選定基準				提案内容（事業計画書抜粋）		事業実績		評価	
大項目	中項目	選定基準		（当時の評価） 配点	指定管理者募集時 （令和元年当時）の主な提案内容	指定管理期間 （令和3年度における事業実績）		実績に対する評価 （S～C）	
		小項目	評価の視点						
Ⅲ 団体の 業務遂行能力 (25)	7	人的な能力、執行体制	(1)	<p>執行体制及び委託業務のチェック体制</p> <p>①指定期間を通じて、3館一体により効果的・効率的に指定管理業務を行うための人員配置等の状況</p> <p>②業務の一部を委託する場合の管理・指導体制の状況</p>	(4) 5	<p>①指定期間を通じて、3館一体により効果的・効率的に指定管理業務を行うための人員配置等の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 3館会議に加え令和2年度に総合調整会議を設置し施設運営部門の連携強化を図るほか、音楽事業部長の新設、社会連携ポータル部門の設置、広報営業部門の統合、舞台技術職員の各館への配置、コンプライアンス担当部門の設置等に取り組む。 <p>②業務の一部を委託する場合の管理・指導体制の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 財団職員の監督・指導下において業務を行わせ、実施状況については担当者や責任者が毎年度末にモニタリングを行う。 	<p>①指定期間を通じて、3館一体により効果的・効率的に指定管理業務を行うための人員配置等の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 長年舞台業務に携わり、舞台技術に精通している職員を各館に配置することにより、各館同士の情報共有がなされ、連携体制が強化された。 令和2年度から原則月に1度実施している施設運営調整会議は、3館に財団本部を交えて主に各館の施設利用に係わる職員が参加しており、より現場の現状の共有が深まり、意見交換により各館の運営力強化につながった。 <p>②業務の一部を委託する場合の管理・指導体制の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 各業務において、日ごと月ごとの履行確認や、業務日誌や業務実施現場の目視などにより業務を確認している。業務担当職員は、委託業者と定期的にミーティングを行い、情報共有を密にし、改善すべきところは迅速に改善できるようにしている。委託契約が長期契約の場合、年度末に実績評価表により実績を評価し、年間を通して業務が適切に遂行されているかどうか確認し、翌年度の業務がより改善及び深化するよう指導している。 	A	
			(2)	<p>人材育成、労働環境確保等</p> <p>○指定期間を通じて、3館一体により安定して指定管理業務を行うための専門的な人材育成や職員採用の状況、労働時間短縮の取組や職場のハラスメント対策など労働環境の確保に係る取組状況</p>					<p>○指定期間を通じて、3館一体により安定して指定管理業務を行うための専門的な人材育成や職員採用の状況、労働時間短縮の取組や職場のハラスメント対策など労働環境の確保に係る取組状況</p> <p>P79～81</p> <p>①人材育成等の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務を通じた能力開発及びモチベーションの向上 業績評価による目標管理手法の導入の検討 新規採用職員研修・管理職向けコンプライアンス関連研修・外部研修等活用 <p>②労働環境確保の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> シフトの工夫、業務分担の見直し、ノー残業デーの設定等 職員就業規程の改定、相談体制の整備、ハラスメントが起こらない職場風土づくり
	8	財政的な能力	(1)	財務状況	(5) 5	P82	法人の決算書や実績書等を基に判断	法人の決算書や実績のとおり。	A

評価
 S評価:極めて良好な管理運営状況
 A評価:良好な管理運営状況
 B評価:一部改善が必要な管理運営状況
 C評価:抜本的な改善が必要

[指定管理業務実績評価シート]

指定管理者募集時の選定基準				提案内容（事業計画書抜粋）		事業実績		評価
大項目	中項目	選定基準		(当時の評価)配点	指定管理者募集時(令和元年当時)の主な提案内容	指定管理期間(令和3年度における事業実績)	実績に対する評価(S~C)	
		小項目	評価の視点					
Ⅲ 団体の業務遂行能力 (25)	9 コンプライアンス、社会貢献	(1)	コンプライアンスのための体制	○指定管理業務を実施するために必要な団体等の企業倫理・諸規程の整備、施設設備の維持管理に関する法規や労働関係法規などの法令遵守の徹底に向けた取組の状況(労働条件審査の実施予定など施設職員に係る労働条件の確認の有無を含む)	P83	○指定管理業務を実施するために必要な団体等の企業倫理・諸規程の整備、施設設備の維持管理に関する法規や労働関係法規などの法令遵守の徹底に向けた取組の状況(労働条件審査の実施予定など施設職員に係る労働条件の確認の有無を含む) ・顧問社労士、顧問弁護士、会計事務所等の専門家からの指導・助言により法令順守に努めるほか、職員に対する研修を実施する。	○指定管理業務を実施するために必要な団体等の企業倫理・諸規程の整備、施設設備の維持管理に関する法規や労働関係法規などの法令遵守の徹底に向けた取組の状況(労働条件審査の実施予定など施設職員に係る労働条件の確認の有無を含む) ・県及び県民から信頼される組織であるために、全ての役職員が法令や財団規程を遵守し、指定管理業務を高い水準で実施できるよう財団を挙げて取り組んでいる。 ・顧問社労士、産業医を委託し、月1回の定期相談日を設け、職員の労働環境、安全衛生等について指導・助言を得ている。また、会計については会計事務所に定期的な会計指導を依頼している。顧問弁護士には、法律的な課題が発生する都度、専門的見地から助言を得るなど法令遵守に努めている。 ・法令の改正等に際しては、常任理事及び管理職が参加する定例会議等において周知するとともに、必要に応じて職員への研修を行った。 ・産業医の指導の下「衛生推進の会」を開催し、職員の健康・労働環境の改善に努めた。	A
		(2)	環境への配慮	○指定管理業務を行う際の環境への配慮の状況	P84~85	○指定管理業務を行う際の環境への配慮の状況 ・専門的知識を有した職員の配置 ・施設整備を熟知し、専門性を活かした対応 ・エネルギー使用量の「数値の見える化」 ・環境に配慮した物品の購入 ・危険物、化学物質等のリスク管理 ・建物・設備のライフサイクルコスト低減	○指定管理業務を行う際の環境への配慮の状況 ・各館に電気主任技術者を配置(音楽堂は県立図書館に同技術者が配置されているため除く) ・設備機器の運転管理、監視により、快適な施設の環境を維持するとともに、温室効果ガスの削減に取り組んだ。 ・これまでの省エネルギー化に向けた「数値の見える化」について、その後温室効果ガスの「見える化」が課題となったため、対応について検討している。 ・神奈川芸術劇場では、チラシを入れる袋をプラスチックから環境に配慮したバイオマスの袋に代えた。 ・施設内のトイレトペーパーは、グリーン購入法適合商品を採用した。 ・施設内から排出されるごみの分別を徹底し、再生可能な段ボールゴミ等はリサイクルを活用した。 ・危険物、化学物質等については、法令を遵守し適正に管理した。建物・設備のライフサイクルコスト低減に向け、定期点検を行うなど適正に管理した。	
		(3)	障がい者等への配慮	○障がい者雇用促進の考え方と実績、法定雇用率の達成状況等 ○障害者差別解消法に基づく合理的配慮など、「ともに生きる社会かながわ憲章」の主旨を踏まえた取組についての考え方 ○手話言語条例への対応	(4) 5 P86~87	○障がい者雇用促進の考え方と実績、法定雇用率の達成状況等 ・特別支援学校等からの職場体験の受け入れ等で財団内の業務改革及び意識改革に取り組む。 ・令和元年6月現在 実雇用率1.7(不足数0) ○障害者差別解消法に基づく合理的配慮など、「ともに生きる社会かながわ憲章」の主旨を踏まえた取組についての考え方 ・「ともに生きる社会かながわ」、共生社会の実現に向けて、障がい者の雇用に資することと障がい者が製作した商品等の紹介を通して理解を図ることの2つの立場で取り組んでいく。 ○手話言語条例への対応 ・計画に記載なし。	○障がい者雇用促進の考え方と実績、法定雇用率の達成状況等 ・令和3年度の実績として、重度身体障がい者1名を雇用し(障害の度合いにより法定雇用率のカウントは2名分)、法定雇用率3.28%を達成している。 ○障害者差別解消法に基づく合理的配慮など、「ともに生きる社会かながわ憲章」の主旨を踏まえた取組についての考え方 ・職員が使用する名刺を就労継続支援A型事業所に発注し(財団本部及び県民ホール)、共生社会の実現に向けた継続的な一歩として取り組んだ。 ○手話言語条例への対応 ・神奈川芸術劇場や県民ホールの事業において、手話通訳士による受付サポートやガイド通訳の配置、手話動画によるサポートを行った。	
		(4)	社会貢献等への取組	○外国人等に対するコミュニケーションにおける支援 ○SDGs(持続可能な開発目標)への取組、社会貢献活動等、CSRの考え方と実績	P88~90	○外国人等に対するコミュニケーションにおける支援 ・計画に項目なし。 ○SDGs(持続可能な開発目標)への取組、社会貢献活動等、CSRの考え方と実績 ・次の8目標に取り組む。 貧困をなくそう、すべての人に健康と福祉を、質の高い教育をみんなに、ジェンダー平等を実現しよう、働きがいも経済成長も、人や国の不平等をなくそう、住み続けられるまちづくりを、パートナーシップで目標を達成しよう。	○外国人等に対するコミュニケーションにおける支援 ・各館ホームページを多言語対応(自動翻訳機能を付加)としたほか「やさしい日本語」対応ページを掲載している。 ・主催事業では、英語表記を含むチラシの作成、やさしい日本語での公演パンフレットの作成、英語での会場アナウンス、多言語スタッフによる案内サポートなどを行った。 ○SDGs(持続可能な開発目標)への取組、社会貢献活動等、CSRの考え方と実績 ・社会連携部と各部門の取り組みを通して、財団が掲げるSDGsの目標に対して、より深くアプローチするとともに、取組を通して次年度やその先に続く足固めをしている。 ・地球温暖化や気候変動など、環境分野への取組のために発行される債券として神奈川県第1回5年公募公債(GB)及び社会課題や国連の持続可能な開発目標の達成に活用される第176回都市再生債券(SB)を購入した。	

評価
 S評価:極めて良好な管理運営状況
 A評価:良好な管理運営状況
 B評価:一部改善が必要な管理運営状況
 C評価:抜本的な改善が必要

[指定管理業務実績評価シート]

指定管理者募集時の選定基準				提案内容（事業計画書抜粋）		事業実績		評価		
大項目	中項目	選定基準		(当時の評価)配点	指定管理者募集時(令和元年当時)の主な提案内容	指定管理期間(令和3年度における事業実績)		実績に対する評価(S~C)		
		小項目	評価の視点							
10	事故・不祥事への対応、個人情報保護	(1)	事故、不祥事への対応、個人情報保護	<p>○申請開始の日から起算して過去3年間の重大な事故又は不祥事の有無並びに事故等があった場合の対応状況及び再発防止策構築状況</p> <p>○個人情報保護についての方針・体制、職員に対する教育・研修体制及び個人情報の取扱いの状況</p>	(3)5	<p>①募集開始の日から起算して過去3年間の重大な事故又は不祥事の有無並びに事故等があった場合の対応状況及び再発防止策構築状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去3年間の重大な事故又は不祥事は無し 風通しの良い職場づくり セキュリティ対策基準を制定し全役職員に周知し徹底 専門職員間の情報共有と事故防止の体制作り 大地震発生時の初動対応や新型コロナウイルス等、実態に即した対応ができるよう手順書の作成・改定等と体制づくりに取り組む。 財団本部会計担当の各館会計担当への指導、会計事務所からの指導助言による対応、現金取扱業務のダブルチェックや手順見直し <p>①P91~92</p>	<p>①募集開始の日から起算して過去3年間の重大な事故又は不祥事の有無並びに事故等があった場合の対応状況及び再発防止策構築状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去3年間の重大な事故又は不祥事は無し 風通しの良い職場づくり セキュリティ対策基準を制定し全役職員に周知し徹底 専門職員間の情報共有と事故防止の体制作り 大地震発生時の初動対応や新型コロナウイルス等、実態に即した対応ができるよう手順書の作成・改定等と体制づくりに取り組む。 財団本部会計担当の各館会計担当への指導、会計事務所からの指導助言による対応、現金取扱業務のダブルチェックや手順見直し <p>①P91~92</p>	<p>②個人情報保護についての方針・体制、職員に対する教育・研修体制及び個人情報の取扱いの状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 方針：関係法令の遵守 体制：個人情報等統括管理者（事務局長）及び個人情報等管理者（各館長と事務局長）の設定 職員教育：外部・内部研修の受講やヒヤリハット事例の共有等を実施。 取扱：紙媒体は施錠できるキャビネットで管理する他、アクセス制限を設けたエリアでの管理、パスワード管理等を実施する。 <p>②P93</p>	<p>②個人情報保護についての方針・体制、職員に対する教育・研修体制及び個人情報の取扱いの状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員は個人情報保護に係るCPA、CPP資格の更新講座を受講し、定期的に法改正や近年発生した個人情報関連の事例を元に定期的な研鑽の機会を設けている。 3館の従事者を対象に、有資格者の財団職員を講師として個人情報保護研修を実施した。 現場の業務では主な個人情報の取扱いとして、一度に複数の宛先に送信するメールマガジン等は、必ず複数の目で確認し、誤送信がないよう細心の注意を払い業務を行っている。また、利用申込書など個人情報が含まれる書類は、業務終了時鍵付きキャビネットに格納するなどしている。 	A
			11	これまでの実績		(1)	管理運営等の実績	<p>○これまでの管理運営等の実績の状況</p> <p>○県又は他の自治体における指定取消しの有無</p>	(5)5	<p>P94~108</p> <p>○これまでの管理運営等の実績の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 多岐に渡るため、事業計画書の各項目を参照。 <p>○県又は他の自治体における指定取消しの有無</p> <ul style="list-style-type: none"> 無し
総合評価						<p>S評価:極めて良好な管理運営状況</p> <p>A評価:良好な管理運営状況</p> <p>B評価:一部改善が必要な管理運営状況</p> <p>C評価:抜本的な改善が必要</p>		A		

○評価講評

総合的に判断して、A評価：提案内容どおり良好な管理運営状況であると評価された。

- 1 評価できる点としては、次のようなものがあった。
 - ・ 3館がこれだけの事業を作り出していく能力は全国で見ても稀有だと思う。創造できる劇場としてこれだけの作品を作り出す能力を蓄えつつあることを評価したい。
 - ・ コロナ禍の厳しい状況の中、収支が改善しているという点では良好だと考える。
 - ・ インスタライブなど、これまで取り組んでいなかったことに取り組み、良いチャンネルを探すというのは良い。
 - ・ 3館連携、社会連携ポータル部門の取組を評価したい。

- 2 懸念される内容としては、次のようなものがあった。
 - ・ 資料について、見せ方が足りない。外部の人がこの資料だけを見てもわからない。
 - ・ 社会連携ポータル部門等、売りの部分については、積極的なPRを入れつつ、具体的な説明をしていただきたい。

- 3 その他、要望として次のようなものがあった。
 - ・ この状況の中で来場者の満足度は高いと考えられるが、そのような情報なども入れていただきたい。
 - ・ 何をやったかだけでなく、アウトカム、どのようなインパクトが生じているか等についても念頭に置きながら取り組んでいただきたい。
 - ・ 新しい取組がこれまでにない可能性を引き出せると良い。
 - ・ 連携ということをキーワードに個性を生かしながら更に広域的に展開してもらえれば。
 - ・ 展開が横浜市中心となっていることは県外から見ても感じられる。オンラインの活用など、さらなるアプローチを考えていただきたい。
 - ・ 修繕の工事等について、実施時期とかフレキシブルな対応、バランスよくお願いしたい。
 - ・ 県民の喜びに繋がる事業を展開して欲しい。

※参考：指定管理実績評価委員会における委員意見に対する指定管理者補足資料

項目	委員の意見	追加記載(案)
1 施設や、舞台設備の専門人材の配置について	<p>○ 3館一体の取組として、各館に施設維持管理及び舞台技術の専門職員を置き、また事業部長を置いた、としている。</p> <p>○ しかしながら、3館とも演劇、音楽、オペラなど公演機能は別々である。</p> <p>どのような点で専門職員を置くことが3館一体の取組になるのか。</p> <p>○ 「平準化」という表現は誤解される懸念がある。</p>	<p>1 専門人材の配置と3館一体機能について</p> <p>○ 第3期指定管理期間より、県民ホールと芸術劇場の施設維持管理、清掃、警備を一体として委託を開始し、両館の施設管理を担当する技術職員が、連携して仕様書の作成や入札手続を行い、効率化と管理水準向上を図ってきた。音楽堂についても、芸術劇場の技術職員が必要に応じて、技術指導・支援に当たり、管理水準の向上に努めている。3館とも良好な水準を保つ運営を行っている。</p> <p>○ 舞台施設管理関係については、令和2年度より、高度な技術力を持つ芸術劇場の舞台技術職員を、人事異動により県民ホールに担当部長として配置し、委託業者への指導や安全管理指導、主催事業の芸術性の向上等に従事させている。また、令和3年度から、音楽堂について</p>

		<p>も、県民ホールの舞台技術担当部長が委託業者指導や安全管理等の支援を行っている。</p> <p>○県民ホールと音楽堂の事業を統括する音楽事業部長及び神奈川芸術劇場の事業を統括する事業部長は、一柳慧芸術総監督、長塚圭史芸術監督と、県民ホール、神奈川芸術劇場、音楽堂の職員との橋渡しとなるとともに、連携して、財団全体の芸術文化事業の構成、バランス等の最適化を図っている。</p>
<p>2 社会連携ポータル機能</p>	<p>○社会連携ポータル部門とは。</p>	<p>2 社会連携ポータル部門の役割</p> <p>○これまで3館がそれぞれに、公演事業や施設運営事業と同時進行で行ってきた4つの取組（専門人材育成、学校教育へのアプローチ、インクルーシブアプローチ、地域連携等）を、ひとつの部門に集約することで、「検証」と「改善」をより効率的に行うとともに、技術の向上を図り、高い水準で実施し、県民の方々に還元していくことを目指している。</p> <p>例として、ポータブル字幕機の提供、手話通訳士によるサポート、事前レクチャー等の鑑賞サポートを利用した方から、「本格的なプロの演技を見るのは初めてだったので、とてもいい体験になった。」、「東京にでかけることが多いが、近くでこうしたプログラムがあると嬉しい。」、「オペラは敬遠していたが、初めて音楽を聞き、興味が広がった。」等の感想と同時に、「鑑賞サポートのある公演をまとめて見られるサイトやちらしがあるとよい。」、「点字版曲目リストのあることなど、ホームページに載せてくれば、事前にわかってよい。」などの要望もいただき、改善につなげている。</p> <p>○3館横断してこの4つの取組の情報提供を行うWEBサイトを開設し、情報をより届きやすい形で提供している。</p> <p>○そして、この部門が窓口となり、3館が地域の文化施設、教育機関や活動団体とつながり、巡回公演や事業協力で連携しながら技術の共有や情報提供を行い、県の拠点文化施設としての役割を一層強化していく。</p>

3 アンケート対応	<p>○アンケートをどう活かしたかを実績に書くなどにより、エビデンスのある報告としてほしい。</p>	<p>3 アンケートを活かした具体例</p> <p>○感染対策として大ホールロビー内設置のコインロッカーの使用を休止していた際、コインロッカーが使用できないとは知らなかった。もっとわかりやすくホームページに記載して欲しい。</p> <p>→ホームページに大ホールコインロッカーを使用休止している旨施設案内に改めて記載した。 (※現在は使用再開)</p> <p>○ウレタンマスクで会話している人がいて気になる。不織布マスク着用にして欲しい。</p> <p>→ホームページで「不織布マスク着用」の案内と館内掲示及び（不織布マスク未着用の方に）申出に応じて不織布マスクの配布を開始した。</p> <p>○会場内で混雑時に会話をする人が多く、（感染が）気になる。</p> <p>→「会話をお控えください」の掲示パネルを追加で作成し、レセプションスタッフが掲げ注意喚起を強化した。</p> <p>○財団主催事業に来場された方から、プレ・トークをすることを知らず残念だったとの意見があった。</p> <p>→公演のチラシやホームページ、チケット券面にプレ・トークがある旨の記載をわかりやすくするよう改善した。</p>
4 配信での目標設定	<p>○インスタライブの視聴者が少ない。</p> <p>○こういった配信機能については、目標設定し、そのためにどのような発信の仕方ができるか考えるような方法をとってほしい</p>	<p>4 インスタライブ</p> <p>○令和3年度において感染対策の一環として、公演後のアフタートークの代わりとして試行的に実施したもので、視聴者数等の目標設定はしていなかった。（今後、よりよい発信の仕方を作り上げていく。）</p>
5 評価シートの構成	<p>○同じ取組報告があちこちに出てくる。</p>	<p>○評価シートの構成上、記載内容に重複が生じる。今後「再掲」であることを明示した上で表示するなど工夫をする。</p>

令和4年度指定管理業務実績評価委員会 議事録

(議事について事務局より説明)(会議の公開、傍聴の許可を決定(傍聴者無し))

神奈川県立県民ホール及び音楽堂指定管理業務実績評価委員会の設置及び運営に関する要綱に基づいて、委員長については互選により草加委員が、副委員長については委員長の指名により垣内委員が選任された。

○草加委員長

それでは、次第の3、評価項目について事務局より説明をお願いします。

(評価項目について、事務局より説明)

○草加委員長

事務局からの説明に対して、質問等はあるか。

(質問及び意見なし)

○草加委員長

それでは、次第の4、実績についての説明に移る。(1)サービスの向上、(2)管理経費の節減等、(3)団体の業務遂行能力の実績について、指定管理者である公益財団法人神奈川芸術文化財団から説明をお願いします。

(実績について公益財団法人神奈川芸術文化財団より説明)

○草加委員長

ここまで、説明があった内容について、御意見、御質問等はあるか。

○高野委員

資料1、1ページ目の下段、施設の維持管理及び舞台技術の人員配置について、県民ホール、KAAT、音楽堂に専門職員を置き、3館の運営の平準化を図ったとは。3館それぞれに別の専門職員がいるということか。

○神奈川芸術文化財団(薄井専務理事)

県OBの電気技師をKAATと県民ホールに配置している。音楽堂は図書館に電気技師がいる。これらの技術職員は、施設全体の維持管理も行っている。3館別々に配置しているが、

連携して意見交換しながら施設運営に取り組んでいる。舞台技術関係については KAAT に在籍していた舞台技術職員を異動させて、現在、県民ホールに配属している。その職員が KAAT と連携した形で運営している。また、その県民ホールの舞台技術担当職員が、音楽堂の運営を支援している。このことを踏まえ、3館一体化した形で運営を行っていると表現した。

○高野委員

3館担当で情報交換している、とかでない「平準化した」、という言い方がおかしいのではないか。

○神奈川芸術文化財団（眞野館長）

言い方が乱暴すぎたかもしれない。これまで舞台技術職員がいたのは KAAT で、県民ホールや音楽堂では、これまで舞台技術職員が配置されていなかったのも、委託をかけていたところ、KAAT の人員を県民ホールや音楽堂に割いた。KAAT のニーズを県民ホールや音楽堂、全体で補い共通の認識をもてるようにした。音楽堂についても、技術や考え方を共通させるために、記載が悪かったところもあるが、3館で考え方を統一させ、統一的な運営を図っている。それぞれの館の役割が違うため、特徴をバランスよく活かせるように、本部も事業部長もバランスよくするようにしている。

○高野委員

その話は重要なことだと思うが、本部の話は記載がないし、この文章のみ読んでいってつながっていない。文章も前の方と後ろの方がつながっていないなど、今のような説明を記載しないと外部の人間が見てもわからない。なおかつ、平準化といっても3施設やっている内容が異なること、基本的なところは同じかもしれないが、舞台等は異なること、かつ統一的なものもあるところが書いていない。

○神奈川芸術文化財団（眞野館長）

御指摘の通り、うまく表現できていなかった。実際のところは今説明したとおり。

○神奈川芸術文化財団（薄井専務理事）

表現に至らないところがあり申し訳ない。また、指定管理の関係だと施設運営は同じ委託業者が KAAT と県民ホールに入っており、入札も仕様も一緒にやっている。それらは統一している。また、KAAT の舞台技術職から人を分けて対応している。ここが分かる形で書き直したい。

○草加委員長

平準化という言葉の表現の仕方が誤解を生じる形であったかもしれない。

○中島委員

独自性と平準化について、私も、平準化は誤解を生みかねないので避けた方が良いのではと思う。情報共有して一歩前進した。一体性に進んでいるという理解はあるが表現上の問題と理解している。

○佐々木委員

今の続きのような質問になるが、P8、令和2年度から原則月に1回実施している施設運営調整会議については、今までなかったのか、また、これを行うことにより、どのようなメリットがあったのか知りたい。また、P1とP8と内容は同じような感じだが、別の項目に同じような内容が書いてあることが多い。ハラスメント研修など。一つの取組をいろいろな項目で評価するようになっているが。

○神奈川芸術文化財団（薄井専務理事）

施設運営調整会議は2年前までなかった。施設ごとに、生い立ちや運営の仕方や貸し方が異なっているため、各館が独自にやっていたことが多かった。元々、財団が指定管理の業務をしていく中で、県民ホールの指定管理に音楽堂の指定管理が加わり、KAATの指定管理も新たに加わった。3館一体的運営をするように指示があったので、効率性を高める、内容を良くするために、指定管理を一体的に運用する手法を提案し、実施している。KAATと県民ホールの施設運営を一体化すると経費が安くなるため、効率的になる。コロナ対策についても安全性を高めるため、各館の情報共有をするなど進めているところ。情報交換についてはメリットを感じていて、今後も続けていきたいと考えている。

また、評価の基準、区分の設定上、説明に何度も同じ内容が出てきてしまうところがある。

○中島委員

先生のためのアウトリーチ、オンラインで実際にやられた中身を教えてほしい。

○神奈川芸術文化財団（伊藤館長）

音楽堂のアウトリーチ事業は、今まで子どものためにやっていたところ、ニーズへの対応を広げるため子どもたちに対応する「先生たち向けに」ということで取組を始めた。今年度に入り、（オンラインではなく）対面で実施できているので、昨年度と今年度の内容を合せて回答をしたい。この「先生のための」事業は、学校のニーズを確認しながらやっていて、メニューは二つ。一つは先生に子ども役をやってもらうもの。子どもの気持ちでプログラムに参加してもらう。もう一つは、研究授業的にやる。やるのは子どもたちだけど、あとで先生が振り返りをしていくもの。いつも教える立場である教員が、子供の気持ちを思い出し、音楽の楽しさやワクワク感、あの楽器を使いたい、などと。ある学校では、これをやった後で研究授業的なメニューにつなげるなど、セットにすることも予定されている。

オンラインでは、子どもに教えるにはこのようにすると楽器としての音色が変わるとか、なじみのない楽器を教えるにはどうしたら良いか、などの説明にとどまっていた。しかし、「先生のためのアウトリーチ」は、始めたばかりではあるが、今年度は音楽をやる喜び自体を届けられるようになった。学校や地域のニーズや特性などを踏まえながら考えていく。

○中島委員

単純に言うと、先生たちが子どもたちに音楽をする喜びを伝えられるようにするのが成果か。

○神奈川芸術文化財団（伊藤館長）

結果論的に話してしまったが、当初はそういうアウトリーチの手法を、音楽家が子どもたちのもつて行くのではなく、先生たちに教えて、先生たちが手法を学んでいけば、私たちが一回行くことで、より広がるのではないかと、県域は広いのでできるだけ多くの地域に届けたいと考えていた。大きな副産物として、先生たちが音楽の喜びに気付いてくれることから、音楽の普及が始まるということを実感している。この事業をやることの大きな肝になる。

○垣内委員

資料1は、基本的に非公募で行った指定管理の評価としては公表が前提となると見せ方が重要になる。その中で3点。

まず、社会と芸術をつなげるポータル、これで、3館連携でつながっていく期待も成果も見えるが、ポータルとはそもそも何か。ポータルとはURLがあって、色々なサービスを受けられるイメージがあるが、この資料を読むとそのような感じでもない。「3館でやっていた機能を集約した事業」とある。これはプロジェクトなのか。社会連携ポータル、重要で魅力的で可能性も感じるが、どういうものなのか。いただいた資料でどこに入っているかもわからない。せつかくの売りの部分の内容、また、私としても内容が良くわからないので、積極的なPRを入れつつ説明を具体的に。

2点目として、せつかく沢山のことをしているが、具体的にこういう成果があった、というところを見せてもらおうと良い。例えばオンライン配信、導入したが、その結果どうなったのか。オンライン配信は皆導入している。劇場はロケーションにより地理的制約があるが、遠い人も見ている、とか、普段興味をもたない年代の人が見ているとかプロフィールも把握しているなら、こんな成果が出た、なので次につながる、などが書いていないと。評価Sがつけられるね、となるくらい書いてくれないとAに留まる。施設の維持管理について、修繕計画を提案した、とあるが、このような方向で、など具体的な例示があるとわかりやすい。その下の文化財、形を現状変更できないところとのバランス、落とすところをどう調整したかなど、具体的にかけると良いのでは。

P5、アンケートを実施した、という結果だけでなく、対応した内容は記載すると具体的なイメージが伝わって良いのでは。

最後に、コロナの影響をどのように評価に入れれば良いか。指定管理の政策自体はコロナの影響を考えずに作った記憶がある。人数も利用者数もノーマルな状況での数字。明らかに2021年は2020年度比較すると回復しているが、コロナの影響がある。関係者はわかっているが、そうでない方々にも理解してもらえるように100ある事業のうち20は中止、30は入場制限入った、その中で実施したところ、それぞれ、1000人のところ500人にしたが400人になった、そのため8割入ったので計画どおり、など。具体説明なしに数字だけ見ると厳しい成果だと思われてしまう。来場者の満足度は相当高いはず。この状況の中、事業を行っているのがまず奇跡。そのようなデータも入れて、できることはやって、うまくいっていて、満足度も高い。という情報を入れたほうがいい。このコロナ禍の影響を御自身でどう評価したのか教えてほしい。

○神奈川芸術文化財団（堀内事業部長）

これまで3館が個別に取り組んできた、人材育成や地域との連携、社会包摂の取組などを、新たに立ち上げた社会連携ポータル課に集約し、新たに活動を始めた。まだ1年目で試行錯誤である。これから発展させていこうとしている。各館の具体的な事業と結び付きながら、例えば鑑賞サービスであったり、県内、地域に出向いて直接連携していくマッチングをしていったり、というようなことを、社会連携ポータル課が行うことで、そこに知見経験を蓄積し、再生産し積み上げていく。これを各館ごとにバラバラで行うのではなく、財団全体で、一つの場所で進めていくことで、価値を高めていきたい。各館からメンバーを集めてスタートした。

○神奈川芸術文化財団（伊藤館長）

活動報告書が1冊できたのが成果。神奈川芸術文化財団でバラバラにやっていることが見えなかったものをまとめた。これまではまとまった記録もなかった。これがあれば、財団内部でも県にも共有できる。これからどのように強弱つけながらやるか、3館同じようにインクルーシブ的な水準はそろえ、施設毎に特化したものは伸ばしていく、など、これから進めていきたいと考えている。

○神奈川芸術文化財団（眞野館長）

社会連携ポータル課を昨年度、KAATの施設内に設置した。

前々年度から、今度の指定管理期間に向けてどのように組織立てしていこうかということで、社会、文化、芸術、福祉、教育、観光とどのように複雑に絡んでいくのか。このことは、一番のテーマ。どうこなして、どう見せて、どのように皆さんに参加していただくか。今年から、財団本部のある県民ホールに社会連携ポータル課を移設した。実際は、「この3

館が、社会連携ポータル化していく」ということが、一番我々の頭の中にあった。例えば、音楽堂は、60年間県民の皆さんに親しまれていた。音楽堂と県民の間には、築き上げてきたあるルールがある。このルールを次の段階に無理なく移行するにはどうしたら良いか。

60年間（音楽堂）かけてやっていたもの、10年間（KAAT）かけてやってきたもの、それぞれの時代層を帯びているが、これらを一緒にするためには違った概念を過去に据えなければならないと考えた。KAAT だけでは据えきれないので、本部にもってきて事業部長の管轄で財団の仕組み的にも県（行政）との連携のためにもこのやり方はどうしたら多様に実現できるのか。まだ、試行錯誤しながらだが、その方向は間違えていないと思っている。これはオンラインもまさにそう。私たちがずっと携わっている、人と人が対面でのみ可能であるという前提でやっているものの中で、オンラインという全く新しいものが唐突に入ってきた。オンラインは有効だと思う人、そうでない、オンラインでは届かないと思う人がいる。今は、どれがどれで、というのはなかなか難しい。それも社会連携ポータルという概念の中でもう一度整理していかないとならない。

コロナについての記載が少ないことは反省だが、コロナによって出てきた問題は新しく出てきた課題ではなく、私たち財団、及び日本の公共施設があらかじめそれぞれに問題意識として抱えていたもの。あらかじめあったものがコロナによって改めて出てきたと思っている。「コロナだからこう」、「コロナだからここを克服した」や「コロナをどうした」というよりは、私たちとしてはコロナによって今の混乱が惹起されているのではなく、あらかじめあった問題がコロナによって改めて浮き彫りにされたと考えている。私たちが今まで抱えてきた問題に対する問題意識を、そのまま問題意識として持ち、解決に向けて頑張れば良いという思いでやってきている。そのため、1年目と2年目について、経済的な打撃はあまりなかった。おそらく、元々意識があったから。とりあえず社会連携ポータルが上位概念、文化と社会、私たちをつなぐ円の中で、それぞれの課題は解決すべきと考えている。このことを上手く記載できておらず申し訳ない。補強するようなものばかりで申し訳ない。

○神奈川芸術文化財団（薄井専務理事）

コロナの影響については、令和2年度は影響が大きく、利用料金では2億5千万円、事業収入も1億3千万円減少している。県から補填していただいたり、我々の事業で積み立てていたものを赤字につき込んだり、オペラを中止したり、常勤役員を一人減らしたり、随分厳しい取組をやってきた。また、国からの補助金を活用するなどして、なんとか経済的な打撃を残さないようにやってきた。その後、利用料金収入については、令和3年度は、県民ホールだと、通常年の9割程度まで戻ってきており、その影響は収束しつつある。

安全性を高め、色々な事業をやり、お客さんをたくさん入れていくという形を作ってきたのかな、と思っている。今、またこういう形でコロナが出てくる中でも、安心して劇場に来てもらうことが大切。そういった流れを消さないことが大切。安全性を高め、いいものを創って、やっていくということが大切。

○谷垣内委員

社会連携ポータル課というのを作って、劇場に来る人だけでなく、積極的にその地域・県域全体にわたって刺激を与えたり文化的活力を刺激するという意図で作ったことは分かった。こういった活動をもっと展開されるといいなと思った。一方でそれぞれの館が個性を保ちつつ、全体としての姿を追求するというところに共感をもてたので良かった。こんなに素晴らしいことをやっているとは、神奈川ってすごいなと感動した。

ただ、横浜中心となっていることは県外から見ても感じる。それぞれ色々な事情があると思うが、こういった形で作ったものをあちこちに届けるためにもオンラインなどは使えるので更なるアプローチなどを考えてほしい。

○草加委員長

県民のホールとしての役割をどう果たしていくのかという話だと思う。

○高野委員

P1、各ホール経年劣化がある。修繕計画を作成して県に出したとある。施設を持っているのではある程度当たり前。コロナで公演を中止したなどは修繕のチャンスだと思う。フレキシブルな対応をどこまでやったのかどうか。劇場施設は年間通して集客計画も立てるので、合間合間で修繕になる。それらを加味したものかどうか。

○神奈川芸術文化財団（眞野館長）

指摘いただいた様々な問題について。三館で一気に解決する手だてについて、県庁といかなる方法がありかなしか、ここのところ協議している。今はっきりとは言えないが、60年間使った小屋、47年間使った小屋、10年間使った小屋では、その時々で修繕の概念が違う。そのようなものを一括に考えるわけにはいかない。とりあえず足元を払うので精一杯。しかし、とりあえず、何十年の間で、どこの修繕が必要かどうかの計画書をとりあえず提出した。御推察のとおり、ピンチがチャンスというが、そういう風になかなか答えられないのがコロナ。完全に閉め切らないと修繕はままならないという状況なので、てこずった。可能な限りやったつもりではいる。今までできなかったことを計画的にやる、ということではできなかった。コロナ対策で手一杯。動きが鈍かったのは間違いない。

○高野委員

そうではないかと思って念のため聞いたのだが、今後やっていく上で、計画は計画だけでも、実施時期とかフレキシブルな対応できるようにお願いしたい。

○草加委員長

財団だけで決められることではなく、設置主体の財政的な問題もあるがバランスよくや

ってほしい。

次に、5の委員による意見交換に移りたい、事務局より、(1)の委員会からのモニタリングについて説明をお願いします。

(事務局より説明)

○草加委員長

続いて、指定管理者の事業実績についての評価に移りたい。

評価の方法は、最初に説明があったとおりSからCまで段階的に点数をつける。

項目ごとに全員の評価を伺うので、それぞれ挙手をしていただきたい。

まず、1ページ目上段。

Iサービスの向上の1 指定管理業務実施にあたっての考え方、(1)指定管理者としての基本方針等について、評価をお願いします。

○佐々木委員

先程の「平準化」という表現や見せ方を変える等の意見はおいておいて、ということで良いか。

○草加委員長

御指摘があった部分に関しては、最終的に外部には修正していただくということ前提で評価をしたいと思う。

○事務局（文化課牛嶋 GL）

シートは本日の資料ですので、この表現のままやらせていただく。

報告書という形で、皆様の評価や御意見をホームページに載せる。その中で、今回いただいた御意見を追加した資料を入れ込む形で考えている。

○草加委員長

指摘事項はその中に載せていただけ理解で良いということだそう。

では、1ページ目、上段、(1)指定管理者としての基本方針等について、評価をお願いします。

A-6名

全員一致ということで、ここの評価はAとする。

次に、1ページ目、Iサービスの向上の2の施設の維持管理について、(1)施設及び設備の維持管理に関する業務について、評価をお願いします。

A-6名

これもA評価とする。

次に、2～6 ページ目の上段、3の利用促進のための取組、利用者への対応、利用料金の
(1) 3館一体運営を踏まえた事業実施サービスの向上の取組み、(2) 県の文化政策と一体となった自主事業の実施に関する事項、(3) サービスの向上及び利用促進の取組みについて評価をいただきたい。

S-3名

A-3名

同数になってしまった。

○事務局（文化課一宮副主幹）

同数の場合は、協議で決めていただければと思う。

○中島委員

Sにした大きい理由は、新しい取組がこれまでの可能性を引き出す。これまで以上にしていくなということが見えたなと思った。実際にやられた部分もあるし、そこを重視した。Aプラスや、Aの部分もあるが、Sの方が勝った。

○草加委員長

コロナ禍で、すごくよくやっているなど。コロナのことを考えると、Aかなと思った部分もあったが、コロナだからこそよくやっているなど感じ、S。

○谷垣内委員

同感である。コロナの中これだけ色々なことを実施できたということは、すごく頑張ってくれたのだなという印象がある。

○高野委員

元々の要求事項に対してしっかりやっているとは思いますが、Sは大幅に上回っているということ。新しいことをやっていることは上回っているが、それが届いているかどうかの判断。要求事項クリアしているから、A。

○草加委員長

なるほど。

○高野委員

良好は良好。良いのだが、Sではないと考える。

○谷垣内委員

この状況で実施できているのはすごいと感じた。

○垣内委員

どこと比較するかということ。これだけ予算をかけて運営している施設と比較した時に極めて良好な状況であるかということ、微妙に引いてしまう。良好であることは確か。そもそも事業書自体コロナのことを考えてない計画だから、そのところをどう考えるか。

○草加委員長

「極めて優れている」ではなく「極めて良好である」かどうかなので、私は「きわめて良好である」と思っているが、いかがか。

○垣内委員

良好かということどうか。

○高野委員

要求水準を満たしてはいるが、大きく上回っているかということそうではないと思う。極めて、というのは誰が見てもすごいと感じないとだと考える。見せ方の問題もあるかと思うが、見せ方が足りないと思う。

○草加委員長

一旦次に進み、この項目については最後に再協議とする。

次は、4つ目の評価である。6ページ目最下段、7ページの一番上（1）通常時の安全管理と（2）緊急時の対応について、評価をお願いする。

A-6名

ここの評価はAとする。

次に、7ページの5の部分。5（1）地域との連携 地元企業の業務委託等について、評価をお願いする。

A-6名

ここも評価はAとする。

7ページの最下段 管理経費の節減に関しては、既に事務局から説明のあった通り、評価はAとなっているので、次に移る。

次に、8ページ目の上段 7（1）実行体制及び委託業務のチェック体制、（2）人材育成、労働環境確保等について、評価をお願いする。

A-6名

ここも評価はAとする。

続いて、8ページ目最下段7財政的な能力について、決算書ということで、高野委員から御意見はあるか。

○高野委員

決算書を確認した。安定した指定管理業務実施について、安定性、信頼性の度合い、コロナで厳しかったが今年度は改善している、という点では良好だと思うが、素晴らしいかというほどでもない。素晴らしいというのは、どういうものを素晴らしいと評価すれば良いのか。補助金が主なものだが、自主財源を伸ばしたなどあれば財団としての活動がアピールできる。提携企業等から大きな寄附を確保したとかなら、Sがつく。

財団は、行政からの補助金のみではなく、その部分にも力を入れていかないといけない。

○草加委員長

非営利の経営を決算書ベースで評価するのは難しいと思う。高野委員の専門的な意見も参考に、評価お願いしたい。

A-6名

ここも評価はAとする。

次に、9ページ 9コンプライアンス社会貢献(1)から(4)までについて、評価お願いしたい。

A-6名

ここも評価はAとする。

次に、10 事故・不祥事への対応、個人情報保護について、評価お願いしたい。

S-1名

A-5名

Aが多いので、委員会の評価としてはAとする。

最後、11 これまでの実績について、評価お願いしたい。

A-6名

ここも評価はAとする。

戻って、先程の、3の評価について。いかがか。

○高野委員

近松心中物語について、満席に近かった。人をあれだけ入れて良いのか、とか、コロナの中でよくやっている、ということはわかるが、細かい部分でひっかかるところもある。なので、100点満点ではないのかと。あと、モニタリング、会場アナウンスが不足していた等もある。コロナの中でよくやっていたという意見はよく分かるが、運営の仕方などどうなのか。

○事務局（赤池文化課長）

整理退場ができていなかった、という御指摘はそのとおりだが、入場者数について、席にフルで入れていたのは、国のガイドラインや県のガイドラインにのっとっている。違反しているわけではない。

○谷垣内委員

100点満点でないとならないのか、95点なのか、実際に拝見していないが、いろんな会場の演奏会など、観客の制限、時間の制限などのシーンを想定して何通りもの準備をして、実際に公演をされて終えているのはすごいことだと、財団の努力は評価したいと思ったところ。

○草加委員長

100点ということはないが、3館がこれだけの事業を作り出していく能力というのは全国で見ても稀有だと思う。中止になった公演もないではないが、創造できる劇場としてのこれだけの作品を作り出す能力を蓄えつつあることを評価したい、全国的にみてもトップクラスだとして、事業という点では評価したいと思う。

○佐々木委員

それぞれのイベントやオンライン配信で、参加人数の目標をもって実施していると思うが、事業報告書を見ると、オンラインでは参加者が数十人などというものもあり、事業のラインナップは素晴らしいが、実績がやや物足りないと思い、Aにした。事業の達成度が読み取れない。

○神奈川芸術文化財団（堀内事業部長）

インスタライブについては、お客様との対話・アーティスト同士の対話をお客様に届ける場であり、事業に付加価値を付けていくものであるのであって、集客目標はおいていない。コロナ禍でアフタートークなどを開催しにくい中でアーティストの声を直接届ける場として試験的に1年行ってみた、というところ。今年は、Webラジオでやろうと取組を始めている。回によっては数十人なので物足りない、多くの人に見てもらいたかったということはあるが、事業本体というよりは付随するものということで、ポストトーク、プレトークと同様に、上演に価値を付け加えるものとしてチャンネルを探している過程、と取ってもらえるとありがたい。

○草加委員長

トライ&エラーをしているというところか。

○佐々木委員

インスタライブなど、今までやっていなかったことをやってみて、トライ&エラーということで、コロナ禍において、良いチャンネルを探すというのは良い試みだと思う。ただ、実績としては YouTube チャンネルの数百回という再生回数はまだ寂しいので、どんどんPRを行っていただきながら、という期待を込めて、前向きにとらえてSとする。

○草加委員長

将来への期待を込めてSをいただいたので、3の項目については、

S-4名

A-2名

委員会の評価としてはSとする。

全体を通して、最後の総合評価については、Sが一つ、それ以外はAということで、Aとする。

最後に総合評価についての御意見をお願いします。

○中島委員

新しい取組がこれまでにない可能性を引き出せることと思って評価した。

○谷垣内委員

連携ということをキーワードに、個性を生かしながら、更に広域に展開してもらえればありがたい。

○垣内委員

3館連携、ポータルを評価したい。併せてアウトプット、何をやったかだけでなくアウトカムもどんなインパクトが生じているか、念頭に置きながらやっていただきたい。ウィズコロナで頑張っていただければと思う。

○佐々木委員

昨年は観客として、巡回公演の「冒険者」を見た。身近で見られる幸せを感じた。今後も県民の喜びにつながる事業を展開してほしいと思う。

○高野委員

厳しい意見をいくつか言ったが、3館は神奈川県民にとって大事な事業だと考える。コロナで頑張ったところで、総合評価Aとなった、これに満足せず、さらに頑張してほしい。

○草加委員長

皆さんのおっしゃられたこと、事業報告書に、エビデンスとして表現できるようにしてもらえるとありがたい、アンケートの成果とかコロナの影響がどう運営に活かしているのか、劇場を開く、シーズン制を設ける、創造環境と劇場の未来を考える、とかがどうなっていくのか、何をしているのか、どうなったのか、など、書いていけると良いと考える。それが芸術監督を置いている理由だと思う。是非国内でも有数の想像力、技術スタッフを持っている劇場だと思うので、「こんなにすごい」というのを見せてほしい。頑張してほしい。

○事務局（赤池文化課長）

閉会挨拶